

白峰集落の活性化に向け、地域の特色を活かした魅力あるまちづくり (日本のモデル山村を目指して)

指導教員：金沢工業大学 環境・建築学部 教授 谷 明彦

参加学生：大桃諒介・菅原英哲・坪田 彬・赤野 恵介・鳥越友香里・平野 周・宮川 千裕
天野翔太・岩永幸子・枝吉拓郎・野尻彰夫・福田沙織子・宮里宜雅・鷺田達也

1. 調査研究成果要約

本調査研究は、白山市白峰地区の継続的な地域活性化のために伝統的な街並みを活かし、世界遺産指定へのステップとして重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）選定を視野に入れたまちづくりを行うものであり、街並みや地域の資源発掘・活用によって、地域に活気をもたらすことを目指す。

今年度の大きな成果としては、昨年に引き続き白峰地区内の空き地を住民の方々や来訪者がくつろげ、尚且つ観光資源と成り得る空間整備した。また、白峰地区に残る歴史的なまちなみを楽しく周遊してもらうために、雪だるま石というプロジェクトも新たに始めた。



図1. 街並みの様子

2. 調査研究の目的

白山市白峰地区は、豊かな自然と歴史的な街並み、文化、景観など非常に価値ある資源が残る地域である。しかし近年、少子高齢化や過疎化などの問題が深刻化しており、2005年の白山市への合併による財源優先順位の低下、独自性の喪失など、現状からの更なる衰退が懸念されていた。

本調査研究の目的は、重伝建地区選定を念頭に置き、白峰地区の伝統的な街並みを活かしたまちづくりを行うことであり、継続的な地域活性化の促進を目指すことである。そして、住民の方々が自立的に活動を実施できる場の形成を最終的な目標としている。

この取り組みは、今年で5年目を迎える。これまでの活動として、1年目は、私たちが主体となって行える活動を中心に「古民家の活用」、「景観整備」、「情報発信」の3項目から成る『まちづくり活動の3方針』を定め、これを軸に具体的な提案を行い、実行した。その結果、古民家を再活用した「雪だるまカフェ」を住民と協働して立ち上げ、運営を行うなどの成果を上げ、住民の方々から信頼や協力を得ることができた。2年目は、住民からの信頼や協力を得たことで、長期間を要する白峰地区の知名度向上を目指す活動へと移行していき、全国へ情報を発信できる土台としてホームページやガイドマップの作成などを行った。また、重伝建地区選定の申請に向けて、建物の外観や街並みの景観調査を開始した。3年目は、これまでの活動を継続させることを目標に、ホームページの更新や重伝建地区選定に向けた調査を行うとともに、調査で得られたデータを報告書としてまとめた。その他、次年度の計画としてカフェの向かいにある空き地を整備するため、住民代表の方々と話し合いを行った。4年目は景観整備とカフェの充実に重点を置いた活動として、カフェ向かいの空き地整備の企画・実行、カフェの内装や販売品の提案などを行ってきた。

今年度は、カフェ、ガーデンなどの拠点施設のさらなる魅力向上を目的に、整備や物品販売の提案等を継続する。また、これまでの活動によって賑わいを見せ始めたカフェ、ガーデンから活動範囲を広げ、地域全体に魅力を広げていくことを目的とした。

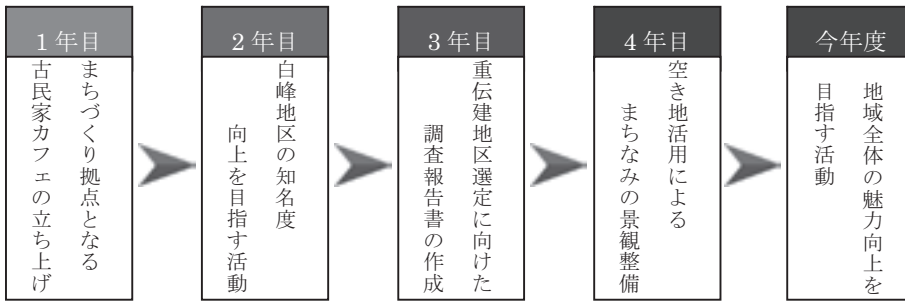


図2. 活動の流れ



図3. 雪だるまカフェ

3. 調査研究の内容

1) 調査研究の手順・方法

本調査研究を以下の手順と方法で行った。

- ① 文献調査・事例調査：白峰地区に関わる文献や中山間地の活性化事例調査などを広範に行い、地域特性や資源などの把握を行う。また、空き地整備の手法、手順などの事例調査を行う。
- ② 現地調査：地区を歩きながら資料やガイドマップと照らし合わせ、街並みの現状や特徴を把握する。また、整備予定地の幅や面積を調査する。
- ③ ヒアリング調査：白峰地区の商業の現状を把握すべく、商業施設経営者の方にアンケートを基にヒアリング調査を実施し、データ化する。
- ④ 来訪者調査：白峰地区で実施されるイベントの際、外部からの来訪者や駐車台数及び、歩行者数などを調査し、アンケートを実施する。
- ⑤ 内装の改善：雪だるまカフェの内装をより魅力的にするため、模様替えや飾り付け、補修作業などのシミュレーションをした後、行動に移す。
- ⑥ ライトアップ：イベントの質を向上させるべく、本学で入念な実験を行い、本番のライトアップを実施する。今年度は、他大学の方に協力して頂き、山岸家の土壁にアニメーションの上映を行う。また、伝統的なまちなみが残る南番地区を中心的にライトアップする。

2) 調査研究スケジュール

本調査研究では以下の表に示すスケジュールで調査研究を進めた。

月	調査研究内容
4	研究地視察
	雪だるまガーデン整備準備（雪かきなど）
5	雪だるまガーデン整備開始
6	雪だるまガーデン整備
7	雪だるまガーデン整備
8	雪だるま石プロジェクト開始
	雪だるま石試作品製作
9	雪だるまガーデン整備
	商業施設調査
10	尾道視察
	雪だるまガーデン整備
	白峰温泉まつりライトアップの企画 商業施設調査
11	白峰温泉まつり参加
	ライトアップイベント企画・実施
	雪だるまガーデン整備 商業施設調査
12	雪だるまカフェ内装整備
1	雪だるままつりライトアップの企画
2	雪だるままつり参加

4. 調査研究の成果

1) 拠点施設の整備

1-1 雪だるまカフェの内装充実

雪だるまカフェの入り口スペースにある販売スペースのレイアウトを考案した。以前は、商品の並びにまとまりが無く、値札といったものも見づらかった。また、商品ケースといったものもなかったため盗まれた商品も中にはあった。しかし、写真のようなケースに入れる事により簡単には持ち出せないようになった。値札に関しては、試作段階ではあるが製作し試験的に置いた。また、カフェ内にパソコンを設置し、白峰の写真スライドショーを流せるようにした。



図4. レイアウト

1-2 雪だるまガーデンの整備

前年度施工された雪だるまカフェ向かいにある雪だるまガーデンに今年度は、ガーデンを周遊するための飛び石の設置やその周りにタマリユウを植栽し、ガーデン上部にはペットトイレを設置した。また、ガーデン下部にはもう一つ入口を設けた。結果的に、車椅子でも入れるようになり、より一層多くの方に訪れてもらえる。また、雪だるまの目玉と題して椅子も設置し、くつろげる空間を作った。今後は、机やパラソル等も置き、より一層オープンカフェとしてくつろげる空間づくりを引き続き行なっていく。



図5. 雪だるまガーデン

2) ソフト面の整備

2-1 雪だるまの里協議会 HP 更新

HP は地区の有志で構成されている「雪だるま倶楽部」の委託を受け、一昨年前に製作したものである。雪だるまカフェを中心として、地区全般の情報発信を行うこと白峰の魅力を広く多くの人に知ってもらう事を目標としている。今年度は昨年度に引き続き、白峰地区でのイベントや、本研究室が行った白峰地区での活動などを定期的に掲載した。



図6. ホームページ更新

2-2 ライトアップイベント

ライトアップイベントとは、白峰地区の住民の方にまちづくりに参加してもらうきっかけ作りと伝統的なまちなみが残る白峰地区の魅力を再発見してもらう事が目的である。今年度は住民にも準備を手伝ってもらった。また、住民の方への告知としてイベント1週間前にチラシ配布やポスターの貼り付けなどの事前周知活動を行った。また、新聞にも掲載してもらい知名度も少しずつ上がったと考える。今年度は白峰の伝統的なまちなみが残る南番地区をライトアップする事に



図7. 当日のライトアップの様子

よって幻想的な演出が出来た。

また、山岸家の土壁にアニメを上映した。映像は、金城大学短期大学部美術学科の方に製作して頂き、プロジェクターを使って上映した。評判は、良いという意見の反面改善すべき意見も頂いたため次年度は改善していく。



図 8. 土壁アニメ上映の様子

3) 地域全体への魅力拡大

3-1 雪だるま石の企画

この活動は雪だるまの絵を描いたストーンアート（雪だるま石）を地区内の各所へ置き、地区のまちなみの向上を図るものである。また、それぞれの雪だるま石に個性を持たせることで、地区のまち歩きの楽しささせる狙いもある。今年度は、使用する石の採取を住民の方の協力を得て行なった。またそれらの石に金城大学短期大学部美術科の学生に絵を描いてもらい、デザインコンセプトとなるもの

の候補を見つけていった。またストーンアートの先駆事例として、広島県尾道市にある「福石猫」の調査を行い、福石猫を製作されている園山春二氏にお会いし、お話もうかがった。



図 9. 雪だるま石試作品

3-2 商業施設調査と商品企画

飲食店調査では、白峰地区のまちの魅力向上のために白峰地区の飲食店経営者の方にアンケート調査、ヒアリング調査を行い、その店の特徴や課題などを読み取ろうとしている段階である。物販の調査では、各店にどのような特産物と言える商品があるのかを調べている。今後は宿泊施設も調査の対象に加え、地区の商業的な特徴を見つけ活性化の手段を考えていく。今後は、そのデータを基に集客効果を上げるために何が足りないのか見つけ、提案する。

また、雪だるまカフェの入り口スペースにある商品を販売するシステムの考案、価格設定を行い、試験的に販売した。



図 10. 商業調査の様子

5. 調査研究に基づく提言

- 1) 住民と行政や大学・企業などが協働でまちづくりを行う際、双方が合意形成し、協力して活動を行わなければならない。しかし中には、行政に任せきりで住民側が受け身なケースや、住民側が望んでいない事を行政が行うケースがある。そういった点でいえば、白峰地区と行政側は良好な関係であるといえる。それは両者ともに地区の衰退の危惧し、まちの維持を強く思う気持ちがあるからである。このような思いを持ち続け、今後も双方が協力し合って活動していくことが重要である。

- 2) 白峰地区は、他の中山間地域などと比べて日用品店や飲食店が充実している。これはまちづくりを行う上で重要な要素である。しかし、住民が価格や品揃えを重視して郊外で買い物を続けられれば、白峰地区の店舗は衰退を余儀なくされる。そうなれば、郊外まで出かけられない高齢者は生活ができなくなり、買い物難民が生まれる。住民はこの意味を十分に理解し、自分たちの地域を守るためにも、極力地元でお金を落とすことが重要である。
- 3) 白峰地区の観光客は年々増加しているが、そのほとんどが日帰り客であり、宿泊客は減少している。かつてはスキー場や白山の登山口として民宿や旅館などの宿泊施設が多く存在したが、2008年にスキー場が競技専用化したことなどにより宿泊客が減少してしまった。日帰りの観光客と宿泊の観光客とでは、地区に落とすお金の数はほぼ倍と言えらるだろう。宿泊客が減少したことで、経営者の士気の低下や、営業を取りやめる民宿などが後を絶たず、このままでは宿泊施設の質の低下が懸念される。今後は宿泊施設の質や経営者の士気を向上させることと同時に、地区全体が一体となり再び宿泊客を増やす活動を行なう事が必要だ。
- 4) 現在白峰地区では若者の人口が減少しており、若い労働力の不足が深刻な問題となっている。このままでは20年、30年後には高齢者ばかりの地域になってしまう恐れがあり、今後、若者をいかにして引き寄せ、定住させるかが重要な課題である。また、若い世代の中から次代のリーダーとなる人物を育て、住民のまちづくり意識を途絶えさせないことも重要である。
- 5) 今後さらに実施すべき提案事項

本調査研究では、提案事項のうち、継続して行う活動を向上させるための提案と次年度以降に向けた新たな提案とに分かれている。短期間で行える提案を実行しつつ、長期間を要する提案はじっくりと腰を据えて、実施していきたい。例として、以下のものが挙げられる。

- ① 雪だるまガーデンに関する提案：前述した通り、雪だるまガーデンの整備は3年計画であり、今年度はベンチなどを試験的に置いてみたが、次年度はオープンカフェとして本格的に利用していく。また、その後整備予定であるオブジェやモニュメント、花壇に植栽についても、今後検討していかなければならない。
- ② 他の空き地に関する提案：今年度は前年度に引き続きカフェ向かいにある雪だるまガーデンを整備したが、白峰地区にはそれ以外の場所にも空き地があるため、今後は他の空き地の利用方針についても提案していく。
- ③ 雪だるまカフェの内装に関する提案：今年度は販売スペースをさらに充実させるため、新たな商品の開発、展示棚のレイアウトも試験的に行った。次年度以降は今年度の活動をもとにして、よりカフェを訪れた来訪者の購買意欲を高めるように、商品の充実や商品棚のデザイン向上などを行ない、より良い販売スペースとしていく。また飲食スペースにも照明の交換などを行ない、カフェを訪れるリピーターを増やしていきたい。
- ④ 飲食・宿泊施設の活性化に関する提案：前述通り、今年度は飲食・宿泊施設の質を向上させていくために、自分たちで各施設を利用したり、施設経営者の方にアンケート調査を行いデータ化した。次年度は、利用者にアンケート調査を行い、さらに多くのデータを取り、各施設を評価して経営者に伝える。また利用者からの要望などがあれば、経営者も改善するために行動し、それが施設の質の向上に繋がるのではないかと考える。
- ⑤ 散策を楽しむための提案：今年度は前述した通り、広島県尾道市の「福石猫」を調査し、調査結果を基に白峰地区でも「雪だるま石」を試作段階ではあるが製作した。次年度は実現に向け提案を引き続き続け、最終的には地区のいたる所に設置し、散策を楽しくする。

その他、観光客が白峰地区を散策する際に利用できるレンタサイクルやレンタル傘などを白峰らしいデザインで制作し設置する。

6. 調査研究の自己評価

今年度は昨年度から整備を開始した「雪だるまガーデン」の整備をさらに進めた。植物やベンチの設置により完成度が増し、より親しみやすいものになり、景観整備としても役立った。訪れた方からお褒めの言葉を頂くこともあった。飛び石の設置などによって遊ぶことが出来るようになり、子どもの利用者も増えた。しかし雪だるまカフェの内装充実についてはカフェ内のパソコン設置と商品棚のレイアウトを行ったが、予定していた照明の交換などはできなかった。

「情報発信」に関しては昨年度同様にHPの更新やライトアップイベントなどをおこなった。ライトアップイベントでは昨年度よりも多くの方が訪れイベントの手伝いをしてくれる方も多くなった。住民の方からは「定番になってきた」との声も聞かれた。

また、地域全体への魅力拡大として雪だるま石の企画という新しいプロジェクトを始めた。今年度は初年度と言うことでまずは事例を調査し、素材の検討、試作品の制作、設置方法の検討などの準備の段階であった。住民、芸術家、学生など研究室外の方の協力者を探し依頼することも必要であった。来年度以降、本格的に始動することで白峰の魅力を発信し、雪だるまの里として広く認知してもらい、話題になることを狙っていく。

新たに白峰地区のまちの魅力向上のために白峰地区の飲食店、特産品を売っている土産物屋にアンケート調査、ヒアリング調査を行いデータ化しが、それを分析するまでには至らなかった。今後は、さらにデータを集め、分析し新たな提案につなげていく。今年度行ったアンケート調査やヒアリング調査では住民の方は協力的であり、信頼を得ることができていると感じた。

今年度の目的の一つとして活動は拠点施設での賑わいを地域に拡大していくというものがあった。ライトアップイベントや拠点施設の整備、積極的な情報発信などによって白峰を訪れる人も増加し、賑わいを見せていた。イベントや協議会へ住民が積極的に参加する姿も見られるようになり、住民がまちづくりに対して意識を持ち始めていた。しかし拠点施設から離れた場所ではまだまだ十分な賑わいであるとは言えない。今後は、準備段階であった雪だるま石や商業施設の活性化を本格的に開始し、まち歩きを楽しいものにするによって地域全体に賑わいを広げていってほしい。